

コラため情報 第4号

意外と知らない 熊本お城物語

高くそびえる天守閣や重厚な石垣が美しい日本の城。肥後熊本の城。お城を知られば、もっと楽しい。あなたも歴史浪漫のページに触れてみませんか。



熊本城

清正公が慶長六年(一六〇一年)から七年の歳月をかけて茶臼山の頂に築いた熊本城。日本三名城の一つに数えられ、今年築城四百年を迎え、全国の注目もさらに高まっています。また、そのシンボルともいえる本丸御殿も、復元が終わる来年には、堂々とした風格でわたしたちの目の前に姿を現します。全国から多くの人々が訪れるでしょう。そこで、熊本県民なら一度は見えておきたい熊本城や城下町の「コラため」を熊本市文化財専門相談員の富田紘一先生に教えていただきました。

勇壮な石垣に息づく熊本城の歴史

熊本城は慶長十二年(一六〇七年)に完成しました。優美な曲線の石垣や大小の天守閣、五十ほどの櫓(やぐら)を有する周囲5.3キロメートルの雄大な城です。

石垣の積み方にお城の進化が

熊本城といえば天守閣や櫓はもちろんですが、やはり石垣がその名城たるゆえんといわれるほど魅力的。城内には、今でも高い石垣がそびえ、さまざまな技法の石垣を見ることが出来ます。中でも、独特の勾配の「武者返し」。「実はこの「武者返し」、傾斜や石積み方法なども、築城を始めた加藤清正の時代から、改修を行った細川忠利の時代に至るまでの長い間に進化しているんですよ」。石垣の積み方一つにしても、お城の進化とその歴史に触れることが出来ます。



熊本市文化財専門相談員 富田 紘一先生

算木積(さんぎづみ) 長方形の角石を左右交互に積み上げる方法。勾配も急です。

穴太積(あなうづみ) 熊本城の石垣では最も古く、隅に同じ大きさの石を積み上げる方法。

二様の石垣

元和・寛永に飯田丸の石垣

険しい

多くの人々が集まった肥後五十四石の城下町。城の造りだけでなく、城下町にも特徴が。城下町の範囲はどこまで？



熊本府地図 熊本立熊本博物館蔵

もあまり変化せず、明治二十二年に熊本市となり、現在の都市中核の基盤となっています。

古町は碁盤の目？

「もともと城下町は、敵の侵入に対して見通しが利かない道筋が多いのですが、古町のような流通の要となったところは、碁盤の目のようになっているんですよ。奈良や京都みたいに」と、いきいきと説明されました。今も交通の要となっている「長六橋」や、クラック状に曲がる市電の線路などは、当時の道筋に沿ったものです。



古町之絵図 熊本県立図書館蔵



本丸御殿内部

べる熊本のお城

相良(さがら)氏35代の居城で、元久年間(1204年~1206年)、相良長頼(ながより)により築城。北に球磨川、西に胸川(むねがわ)を堀代わりとしており、球磨川下りの船から眺める石垣も堂々たる風格。見どころの中心となるのが二の丸で、周囲は石垣で固められており、本丸には天守閣はなく護摩堂(ごまどう)が建てられていたとか。

●人吉城歴史館 ☎0966-22-2324



人吉城跡 人吉市

◎おくんち祭り
開催期間/10月11日(木)まで(10月9日(火)神幸式) 場所/人吉市
お問い合わせ先/青井阿蘇神社 ☎0966-22-2274

東アジア情勢が緊迫した7世紀後半(約1300年前)、大和朝廷(政権)が築いた古代山城(こだいさんじょう)。「続日本紀(しよくにほんぎ)」などにも記載がある遺跡。72棟もの建物跡や貯水池跡、土塁跡などの貴重な遺構が発見されています。県では、国営公園化に向けて取り組みを進めています。

●温故創生館 ☎0968-48-3178 FAX 0968-48-3697



鞠智城跡 山鹿市・菊池市

◎鞠智城フォーラムin八千代座 開催日/11月1日(木)
会場/八千代座(山鹿市) お問い合わせ先/山鹿市企画課 ☎0968-43-1114
◎日韓シンポジウム 開催日/11月10日(土)
会場/菊池市文化会館 お問い合わせ先/菊池市企画振興課 ☎0968-25-1111